



Don't be afraid to do things differently from others.

3C's ; Cooperation, collaboration with competition.



沖縄県医師会医学会長
名嘉村 博 先生

Q1. 昨年4月に医学会長にご就任され、医学会総会の企画・開催等にご尽力されておられますが、感想・抱負をお聞かせください。

医師会活動だけでなく医学会も発表や座長等の参加以外は積極的に関わっておりませんでしたので沖縄県医師会医学会長就任依頼は私にとって晴天の霹靂でした。就任後はまず組織の仕組みや運営について勉強する必要性がありました。本会の原型は1903年（明治36年）の沖縄県医会に始まり以後時代の変遷の中で解散と設立があり現在の会の始まりは1951年（昭和26年）の沖縄群島医師会の設立に伴って開催された第1回沖縄群島医学会（南風原朝保会長）とされています。その後諸先輩の努力により現在の参加分科会は21となっています。ほとんどの医療分野を網羅しており全国的にみてもユニークな存在となっています。運営は分科会長会議の審議の後医師会理事会の承認を経て決定されています。医学会総会の開催要項、会頭、講演者、座長の選出なども分科会長会議で討議決定されます。就任以来2回の総会を開催しましたが須加原、田名両副会長の適切な補佐と各分科会長と玉城医師会副会長のご指導に感謝しております。また運営や会の在り方、歴史について知るに従いすべての会員にも知っていただき積極的な参加をお願いしたいと強く思うように

なりました。モットーは簡単、楽しく、ためになるです。

Q2. 本会の医学会総会は、年2回の開催に毎回あらゆる診療科の医師より200題前後の演題を集め、他県にも類を見ないハイレベルの医学会であり、県医療界全般の資質向上に大きく貢献しておりますが、今後の展望等についてお聞かせください。

今後については学術的な面と運営の面について配慮する必要があります。学術では研修医の最初の発表の練習としての役割の深化や開業されている先生方の発表数の増加への取り組みなどがあります。また個人的な意見ですが本土からの講演者だけでなく沖縄への留学生やアジア諸国からの招請講演、“世界のうちなーんちゅ医師大会”なども考えられます。昨年北京で講演した際に“世界の中国人医師睡眠フォーラム”が同時に開催されていました。運営では現在各分科会の事務局を医師会内部に設置するかが提案され検討されています。各先生方の積極的な提案を歓迎します。

Q3. 県医学会は全科の診療所や勤務医の先生方が一堂に会する場として、交流・連携の場としても活用できる良い機会だと思います

が、何か「連携コーナー」のようなものの設置は如何でしょうか。

非常に良いご提案と思います。医学会は学術だけでなく情報・意見交換も大きな意味があり特に専門分野の違う領域や医師同士の交流も大切に談話室や連携コーナーも重要と思われます。幹事会や分科会長会議等で検討し早急に結論が出せるように努めます。

Q4. 細かい点になりますが、一般演題はポスターが主体で、科によっては長時間の立ちっぱなしを余儀なくされていますが、座って聴講等、工夫の余地はありましようか。

スペースの問題もありますが工夫の余地があると思いますのでこれも調整したいと思います。ご提案ありがとうございます。

Q5. 本会または日本医師会へのご意見・ご要望がありましたらお聞かせ下さい。

医療はチームでないと質の向上は望めません。医師は治療の技術的なことだけでなく医療におけるリーダーとしての役割の自覚と他の専門職との連携についての教育や研修も必要ではないかと思えます。また介護や福祉・保健などの社会資源の活用についてももっと理解し活用できるようになると良いと思えます。その意味では医師以外の医療あるいは健康専門職（個人的にはコメディカルという表現は避けたい、日本独自の表現で英語にもない）の参加や市民講座の同時開催など将来の視野に入るかも知れません。

沖縄は地政的にも文化的にもいろいろな面で日本における後進性と先進性の両面を有した特異な存在であると思えます。医療の面でも疾病

の罹患状況が本土に先駆けて欧米型になる傾向があり沖縄で対策を早急にすればその後本土も参考になるし、また救急医療や群星研修プログラムなど優れた面もあります。本土のように大学一極中心のヒエラルキーでなく、大学を含めて公立、民間病院がお互いに競争と協力するという面もユニークです。日本本土に同化するだけでなく異質としての側面が長い目でみると日本全体の発展に寄与するのではないのでしょうか？1609年薩摩の琉球侵攻や明治の琉球処分などを歴史の教訓とすると大局的な展望と如何に独自性を発揮するかが沖縄の課題となるでしょう。また医療も日本だけでなくアジアの中の沖縄の視点も重要だと思います。

Q6. 最後に日頃の健康法、ご趣味、座右の銘等がございましたらお聞かせ下さい。

健康法は特にありませんが数年前体重が91kgとなり頻尿も出現しましたのでダイエットし現在77kg台を維持しています。運動はほとんどしていませんので間食しない、無理に我慢しないで食べる優先順位を決める、ケーキを食べたらご飯を残すなど総カロリー抑制を目標としてどうにかやっています。趣味は英会話かもしれません。毎日英字新聞を読むようにしていますがレベルはまだまだです。座右の銘は特にありませんが強いて言えば“和して同ぜず”です。また“師は常に身近にもいる”ということです。

この度は、インタビューへご回答頂き、誠に有難うございました。

インタビューアー：広報委員 久場 睦夫